

2022年7月27日
一般財団法人自転車産業振興協会

ユーロバイク 2022

欧州最大の自転車展示会ユーロバイクが、これまでのフリードリッヒスハーフェンから、今回初めてフランクフルトに会場を移して、7月13日(水)から17日(日)までの5日間にわたり開催された。

ユーロバイク開催期間中は、見本市会場での展示や会議だけでなく、フェスティバルデーなど会場周辺でのさまざまなイベントや、自転車での来場者に向けた展示会場までの自転車レーン設定等がユーロバイクシティと総称され、公式HP、メールニュースやSNS等を通じて情報発信されてきたが、会期終了とともに最終報告が公式HPに公表された。

それによると「ユーロバイクはモビリティ高速レーンに」と題して、ユーロバイク2022を次のように伝えている。

ユーロバイクはモビリティ高速レーンに

初のフランクフルト開催となったユーロバイクは最終日を終え、主催者及び出展者とも双方にとって一貫してポジティブな結果を得るとともに、自転車業界はモビリティの移行によってもたらされるグローバルな課題に対する結果を得た。

フランクフルトでのユーロバイク初開催は、開催前から高かった期待をさらに上回り、フランクフルトでのニューユーロバイクシティには、5日間の会期で業界関係来場者 33,780 人、一般開放の週末には自転車愛好家 27,370 人が来場した(2021年フリードリッヒスハーフェンでの来場者は業界関係者 18,770 人、自転車愛好家 13,424 人)。世界 105 カ国からの来場者は、世界的なサイクリングトレンドを体験するとともに、共に未来を見据えるためコロナで抑圧されていた直接対面という業界の需要を実証してみせた。

ユーロバイク主催者の担当者は、1,500 社以上の企業が出展参加したフランクフルトデビューの成功を喜び「一流で国際的な来場者が第30回ユーロバイクに参加した。旅行の制限、フライトのキャンセル、コロナウイルス関連のさまざまな困難にもかかわらず、この展示会はパンデミック以前のレベルに戻り、業界、貿易、政策立案者、そしてすべての自転車愛好家がフランクフルトから「自転車利用は

さらに強化され奨励されなければならない。業界にとってユーロバイクは世界で最も重要なプラットフォームであり、この変革を加速させるための持続可能なエンジンである”という明確なシグナルを発信した」と語っており、フェスティバルデーでは、何千人もの自転車愛好家が、デモエリアでのスリリングな試乗、自転車レース、サイクリングシーンの国際的スターをフィーチャーしたアクション満載のショーなど、素晴らしい青空のもと自転車と自転車文化の魅力を体験した。

ユーロバイク 2022 は、イノベーションに満ちた会場で世界中のメーカーがスポーツ用品アイテムとして、また、人気のあるモビリティの懸け橋として、自転車とその多くのコンポーネントの未来を照らした。新規出展者の多くは、多様な製品の範囲拡大に伴い市場における楽観的な現在の状況を反映し、国際貿易の流れ、サプライチェーン、持続可能性、消費者需要の模索など挑むべき課題について、対面での情報交換の場を得たことに感謝の意を表明した。ドイツの自転車業界団体(ドイツ二輪車産業協会)の担当者は「なんて素晴らしいスタートを切ったのだろう。会場は来場者であふれ、出展企業は確立され培われた人脈に大満足であった。我々もわずか数時間で新しい展示会場に慣れた。自転車業界は、政策分野での知名度と人気メディアでの報道が大幅に増加している。ユーロバイクは、今後数年間、世界をリードする自転車展示会を継続するための優れた基盤となる」と語っている。

フランクフルト見本市会場 140,000 m²のホールと屋外展示エリアは、ユーロバイクの会期終盤まで来場者で賑わった。E バイク関連企業の担当者は「ユーロバイク 2022 はあらゆる点で我々の期待に応えてくれた。新会場でのイベント開催は滞りなく行われ、我々は多くの質の高い会議に参加でき、そして展示会の雰囲気は会期中の毎日がエキサイティングであった。フランクフルトへの移転は業界全体にとって大きな決断であり、自転車モビリティの話題は活況を呈する大都市の中心にリアルに届いた」と素晴らしい結果を述べている。

都市モビリティの根本的な変化は「未来のモビリティ」をテーマにした展示ホール 8 で、特に顕著であった。新しいインフラや物流ソリューションからバッテリー技術、カーゴバイクや新興企業のトレンドな話題など、現代のモビリティ形成の幅広い範囲がさまざまな会議形式で発表され、議論された。ユーロバイクは、業界のビジョンが他のエージェントやキープレイヤーと包括的な方法で明確に実証され、進歩するプラットフォームである。構築されたインフラの世界を再構築し、自転車の社会的受容を達成することは、これらを並行に実施してこそ達成できる目標である。

参加者の多くはユーロバイクの質の高さに優れた評価を下した。国際貿易の流れとエンドユーザーの需要への対応も自転車業界にとっての課題であり、ユーロバイクでの議論の対象である。来場者の満足度は、会期最終日までに行ったアンケートで 93%と評価された。

ユーロバイクは政策分野に参入

ユーロバイクでは、開催当初から政策立案者にとっての重要性も強調していた。今回のユーロバイクには、ドイツ連邦政府の運輸大臣、地元ヘッセン州の経済大臣及び運輸長官らが来賓として招かれており、彼ら主な政策決定者はみな、自転車の利用が飛躍的に増加しており、ますます多くの人々がこの実用的な交通手段を利用するという共通の信条を表明した。サイクリストが勇敢である必要はなくストレスなく安心して目的地までペダルを踏むことができるようにすることを目標に、サイクリングルートの溝を埋め、インフラ整備を通じて安全性を確保することが今や不可欠である。

ユーロバイクシティ・サイクリングの楽しさの高い視認性

サイクリングは活況を呈している。フランクフルトでのユーロバイクは、交通の利便性を通じて国際性を高めるため、さらなる発展のためのユニークな機会とスペースを設けた。展示会場への来場を包括的な体験にするために、来場した一般の人々全員が、特別に設定された自転車レーンを利用して自転車で展示会場に辿り着けるようにした。また、来場者はスピードの出る電動バイクでも、シンプルな実用車でも、展示会場の最新モデルの自転車に驚嘆するだけでなく、展示会場周辺のデモエリアで実際の乗車を楽しむことができた。サイクリングの楽しさは、フランクフルト市内 2 箇所に設定されたユーロバイクシティでも表現され、情報、実践的な活動、さらに幅広いサイクリング文化プログラムが、その場で提供された。これまでのユーロバイクではこれほど高いレベルでの視認性はなされておらず、今回さまざまな形態の自転車利用が会場周辺で表現されたことになる。メディアの関心も高く世界 34 カ国から合計 1,177 人が来場している。

ユーロバイク 2023

第 31 回目となる次回のユーロバイクもフランクフルトで 2023 年 6 月 21 日(水)から 25 日(日)まで開催される。また、同会場では同時期 (6/20 と 21) に、ナショナルサイクリング会議も開催される。

以上

出所：ユーロバイク 2022